

群馬県上野村における小型哺乳類調査

木村敏之（群馬県立自然史博物館）

群馬県立自然史博物館では県内の各地において3年計画で総合的な自然史調査を実施している。2011年度より第6次及び第7次調査として上野村地域についての調査を実施している。ここではこの調査の一環として実施されている上野村地域の小型哺乳類調査のこれまでの結果について予察的に報告する。

調査ではシャーマントラップを使用して小型哺乳類の捕獲調査を行った。エサはオートミールを主に用いた。各調査では初日にトラップを設置し、翌日に捕獲個体の回収を行った。いずれの捕獲調査も一晩のみの調査である。捕獲されたネズミ類は種類、性別、体重及び外部形態を計測後、捕獲地点で放逐したが、捕獲された個体のうち死亡個体については標本化し、当館の収蔵資料とした。

本調査では上野村地域における小型哺乳類の生息調査を目的としているため、村内の様々な地点での捕獲調査を実施している。また本年度は特に冬期のネズミ類の分布について2014年度までの調査地域において複数の調査地点を選定し、再び捕獲調査を実施することで、それまでの捕獲結果との比較を目的として調査を実施した。

これまで2011年～2013年の調査では合計14回の捕獲調査を実施した。その内訳としては2011年の11月及び12月に予備調査を実施し、本調査として2012年4月から2013年4月に実施した（2012年12月までは毎月1回、2013年1月から4月までは2ヶ月に1回）。また翌年の2013年8月と10月に補足的な調査を実施した。これらの調査を通して上野村全域の40地点（のべ62地点）において捕獲調査を行った。また2014年の調査では2014年度の調査は9月から1月までの期間で6回の調査を実施し、本年度は特に11月及び12月に2回の調査を実施している。

これまでの捕獲結果を見ると、2015年の捕獲結果は、これまでの捕獲数に比較して捕獲数が非常に少ない点が注目される。この傾向は調査期間内では2012年をピークとして、2014年まで継続的に捕獲される個体数の減少傾向が見られていたが、その傾向と調和的である。また捕獲される種類に注目すると、本年度はアカネズミ及びヒメネズミのみの捕獲であり、これまで捕獲されていたハタネズミ類の捕獲が無かった。過去に実施した群馬県内（下仁田町・南牧村）での小型哺乳類調査でも、捕獲個体数が多い時期にはアカネズミ、ヒメネズミと同様にハタネズミ類の捕獲も多くみられるものの、捕獲個体数が減少するとともにハタネズミ類のみが捕獲数が急減する傾向がある。本調査で見られる傾向も同様の事象を表しているのかもしれない。ただし、すべての調査で調査地点が固定されているわけではなく、さらに本年度は捕獲個体数自体が少ないため、これらの結果の解釈には慎重な検討が必要である。ネズミ類の個体群動態を明らかにするためには、今後引き続き捕獲調査を継続する必要がある。

キーワード：群馬県上野村、ネズミ類、モグラ類、捕獲調査